

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 27 日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520262

研究課題名(和文) 黒川家旧蔵資料の書誌的調査に基づく古典学の形成と知識流通に関する調査研究

研究課題名(英文) A research on the formation and circulation of literary knowledge in the late-Edo period and the early-Meiji period based on the bibliographical research of Kurokawa collection

研究代表者

海野 圭介 (UNNO, Keisuke)

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：80346155

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、江戸後期から明治期にかけての蔵書家であり、国学者であった黒川春村(1799 - 1867)・真頼(1829 - 1906)・真道(1866 - 1925)の三代にわたり蓄積された蔵書群を対象とし、主として、書誌学的調査と奥書・識語、蔵書印集成の作成を通して、書物の流通と収集の過程、及び同時代の蔵書家・学者の交流関係を解明し、よって江戸後期における知識流通と古典学の形成過程を具体的な記述を試みた。

研究成果の概要(英文)：This research aimed to disclose and describe the formation and circulation of literary knowledge in the late-Edo and the early-Meiji period through the bibliographical research of Kurokawa collection, which built-up by Kurokawa family (Kurokawa Harumura (1799 - 1867), Kurokawa Mayori (1829 - 1906), Kurokawa Mamichi (1866 - 1925)) who are Kokugaku scholars.

研究分野：日本文学

キーワード：黒川文庫 黒川家 国学 蔵書形成 知識流通

1. 研究開始当初の背景

前近代日本における知的活動の基盤としての書物の流通とその蓄積（蔵書の形成）については、近世日本文学の一つの核としての草子類の出版活動に影響をあたえた本屋、版元の実態解明や書籍流通を通して見た近世的知の拡散（鈴木俊幸『江戸の読書熱—自学する読者と書籍流通』平凡社 2007）や、近世蔵書家の資料群の形成過程と近世的知の形成について注目が集まるなど（『創立 100 周年記念特別展 岩瀬文庫の 100 点』岩瀬文庫 2008）、知識の源泉としてのモノとしての書籍とその動態への関心が急速に高まっている。つまりは、時代の知の現れとしての書物の集積とその体系化、流通といった、流動し、また蓄積される書物の動態の追求を通して見た、近世的知のあり方に関心が寄せられるようになってきているといえる。

本研究は、上記の研究動向を踏まえ、具体的な視点から江戸期における知の流通に光を当てようとするものである。具体的には、ノートルダム清心女子大学、実践女子大学に分蔵される近世後期の国学者・黒川春村（1799-1866）、真頼（1829-1906）、真道（1866-1925）の3代により収集された蔵書群（主として物語・和歌とその注釈、享受・研究資料等の文学関係資料）を対象とし、個別の書誌学的調査を行い、その奥書・識語と蔵書印の集成の作業を通して、黒川家に蓄積された書物の流通経路を明らかにし、知の流通の具体相の総体的把握を試みる。

黒川家旧蔵本については、柴田光彦『黒川文庫目録 本文編』（青裳堂 2000）、同『索引編』（青裳堂 2001）があり、数カ所に散在している黒川家旧蔵資料の全容を窺い知ることが可能となったが、同目録には、それぞれの書物が蓄積されるに至った経緯や流過程までは記されない。同書に指摘されるように、国学者一族の数代にわたる蔵書の全容が知られるものは比較のまれであり、黒川家旧蔵資料を対象とした上記の作業と検討は、その思想面における達成にのみ関心が向けられてきた「国学者」の知的活動の基盤となった知の流通と蓄積の具体相を窺うためにも十分な資料群と言える。

本研究では、国学者の知の流通と蓄積はどのように行われたのか？という問題設定のもと、黒川家旧蔵の蔵書の流通とその形成過程を窺い知る基礎的資料を整備し、具体的資料の蓄積と分析から、江戸期における知の流通と古典学の形成について検討を試みる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、上にも記したように、

蔵書の形成過程の探求を通じた、江戸期における知の流通と蓄積についての具体的把握にあり、旧蔵資料の総合的且つ網羅的調査を第一の目的とはしていない。勿論、将来的な悉皆調査を視野に入れての計画ではあるが、本研究では、ノートルダム清心女子大学と実践女子大学に所蔵される文学関係の諸書を中心に、他機関所蔵の資料を参照する形で進める。国学者の書き入れや注記を多く記す物語類や歌書類は、その学問の基盤となったものであり、本研究の成果の上に、将来的に他分野の成果を蓄積してゆくように構想することは、合理性から見ても妥当である。

本研究における具体的検討課題は、主として下記3点となる。

- (1) 江戸期知識階層のネットワークに関する検討
- (2) 江戸期知識階層の古典学の形成と流通に関する検討
- (3) 江戸後期の蔵書形成に関する書誌学的検討

(1)「江戸期知識階層のネットワークに関する検討」は、江戸後期知識階層の一典型としての黒川家蔵書の形成に関する基盤的調査と検討の試みである。

国学者の蔵書形成には、国学者間相互の書籍の貸与や書写活動に注目が集められてきた。黒川文庫本の中にも、同時期の国学者である村田春海（1746-1811）、岸本由豆流（1789-1846）などに関係する書籍があり、書籍を介した知の流通が認められる。こうした国学者間の蔵書の流通については以前より注目が集められており、蔵書の形成を考える際の重要な要素ではあるが、個別の事例が報告される例はまま認められるものの、蔵書群としての総体のデータが提供される例は多くはない。(1)では、従来为国学者相互の交流と蔵書形成についての研究を踏まえ、当該資料の奥書・識語集成と蔵書印集成の作成作業を通して書物の流通に関する具体的データの収集を試み、その上で黒川家に蓄積されるに至った書物と知のネットワークの具体相の一端を明らかにする。

(2)「江戸期知識階層の古典学の形成と流通に関する検討」では、国学者の蔵書に特徴的であり、黒川家蔵書にも多く残された、繁多な書き入れや注記を持つ学問テキスト群について検討を行い、黒川家の古典学の形成と流通のあり方について論じる。

従来、書き入れ注記については、ある特定の学派の学説の流通とその拡がり（例えば、本居宣長の学説の継承とその展開、及び影響などについて）についての検討は多く行われてきたが、一つのまとまった蔵書群を対象として、そこに集

積された学問の質と量とを具体的資料をもって示した研究は多くはない。黒川家旧蔵の蔵書の中には、上述のように村田春海、岸本由豆流等の注説の書き入れをもつ伝本が複数認められるが、こうした古典学の形成に関わる注釈・書き入れを有する資料についても、その入手先や流通経路は一樣ではない。(2)では上記のような学問テキストを集中的に調査し、黒川家の古典学への影響が想定されるテキストの流過程について記述し、黒川家の古典学の形成についての検討を試みる。また、黒川家旧蔵書は、明治期に出版された物語注釈書や有職関係書、和歌関係書の底本とされることも多く(『夫木和歌抄』国書刊行会 1906等)、近代国文学の形成過程を伝える資料でもある。その伝播・流通の過程の検討は、近代国文学の形成の歴史の一端を具体的に窺う作業となるため、併せて黒川家に蓄積された知が近代国文学研究へと継承されてゆく過程についても検討と記述を試みる。(3)「江戸後期の蔵書形成に関する書誌学的検討」は、主として文字情報によるデータの蓄積を基盤とした上記(1)(2)の検討からは漏れるが、書物の流通と蓄積を考える上で重要な事項についての検討を行う。

主としてノートルダム清心女子大学に所蔵される黒川文庫本には、奥書・識語や蔵書印といった情報のみからでは窺い知ることのできない特徴を記す書物が含まれている。書物の書誌的特徴(紙の質や装丁、書写される文字の特徴等)から判断して、元来は国学者以外(例えば公家や武家)のもとに所蔵された書物と推測される例が認められる。こうした例においては、文字情報のみならず、装丁や紙質、表紙文様といった情報が重要なデータとなる。(3)では、そうした非文字情報のデータ化とその総体的蓄積及び分析を試みる。

3. 研究の方法

本研究は、江戸後期から明治期にかけての蔵書家であり、国学者であった黒川春村・真頼・真道の三代にわたり蓄積された蔵書群を対象とし、主として、書誌学的調査と奥書・印記集成の作成を通して、書物の収集と流過程と同時代の蔵書家・学者の交流関係を解明し、よって江戸後期における知識の流通と古典学の形成過程を具体的に記述しようとするものである。本研究は、下記の3点のテーマを核として進める。

- (1) 江戸期知識階層のネットワークに関する検討
- (2) 江戸期知識階層の古典学の形成と流通に関する検討
- (3) 江戸後期の蔵書形成に関する書誌

学的検討

具体的な研究分担と研究計画は下記の通りである。

- (1)「江戸期知識階層のネットワークに関する検討」では、ノートルダム清心女子大学と実践女子大学に分蔵される主として文学に関わる書物群の調査を行い、奥書集成・蔵書印集成の作成を行う。具体的には、本研究に前接する科学研究費による研究等により蓄積された調査カードに追加する形で、本研究により総体的な調査と分析を試みる。
- (2)「江戸期知識階層の古典学の形成と流通に関する検討」では、村田春海(1746-1811)、岸本由豆流(1789-1846)等の注説の書き入れを持つ伝本の書誌的調査を網羅的に行う。また、関連する注記を持つ他機関所蔵の資料については、他機関の協力を得て調査検討を行う。
- (3)「江戸後期の蔵書形成に関する書誌学的検討」では、ノートルダム清心女子大学と実践女子大学に分蔵される主として文学に関わる書物群の調査に基づき、主として書誌学的知見よりデータの蓄積を行う。具体的には、表紙、装丁、書風といった非文字データから流通経路が想定される資料について画像データの蓄積と分析を試みる。

4. 研究成果

本研究の設定した下記の3点のテーマについて下記の成果を得た。

(1) 江戸期知識階層のネットワークに関する検討

ノートルダム清心女子大学に所蔵される黒川家旧蔵書の調査を行い、奥書・蔵書印類の入力を行ない一覧した。また、あわせて一部の古典籍についてはその流通の様相を明らかにし、黒川家のような国学者のもとに蓄積された蔵書の出自が国学者間に流通していた典籍を基盤としつつも、公武に所蔵された古典籍を含むことを確認した。

(2) 江戸期知識階層の古典学の形成と流通に関する検討

村田春海(1746-1811)、岸本由豆流(1789-1846)等の注説を書き入れた資料の筆跡等の検討により、その筆跡であるか否か、またその研究成果を含む書き入れであるか否かなどの基礎的考察を行った。

(3) 江戸後期の蔵書形成に関する書誌学的検討

ノートルダム清心女子大学に所蔵される黒川家旧蔵書の調査を行い、表紙、装丁、書風といった非文字データから流通経路が想定される資料について画像データの蓄積と分析を試み、リスト化を進め、エクセル書式のデータとして作成した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

1. 新美哲彦・木下華子, 升底切『金葉和歌集』零本についての書誌的報告, ノートルダム清心女子大学紀要 日本語日本文学編 39-1, 2015年, 査読無, pp. 12-24
2. 藤實久美子, 本屋の誕生, 週間 新発見! 日本の歴史 29, 2014年, 査読無, pp. 20-22
3. 藤實久美子, 大名のすべてがわかる「ガイドブック」武鑑, 週間 新発見! 日本の歴史 7, 2013年, 査読無, pp. 28-29
4. 海野圭介, 高瀬切追考 伝慈鎮筆『法印珍誉集』とその本文, 詞林 54, 2013年, 査読無, pp. 11-20
5. 海野圭介, 儒学と堂上古典学の邂逅—『源氏外伝』の説く『源氏物語』理解を端緒として, 『源氏物語と儀礼』(武蔵野書院), 2012年, 査読無(招待原稿), pp. 265-278

〔学会発表〕(計1件)

Keisuke Unno (海野圭介), Recounting the Procedures of Buddhist Assemblies: On the Hitomaro Kōshiki, Waka Kanjō, and the Secret Transmission of the Kokinwakashū (法会の次第を語る: 人麿講式・和歌灌頂・古今和歌集の秘伝をめくって), The 14th EAJIS International Conference (ヨーロッパ日本研究学会第14回国際会議), 2014年8月29日, Ljubljana University (リュブリャーナ大学), Ljubljana, Slovenia (リュブリャーナ, スロベニア)

〔図書〕(計4件)

1. 深井雅海・藤實久美子, 『近世公家名鑑編年集成 26』, 柊風舎, 2014年, 257p
2. 深井雅海・藤實久美子, 『近世公家名鑑編年集成 25』, 柊風舎, 2014年, 393p
3. 財団法人正宗文庫・国文学研究資料館・ノートルダム清心女子大学編(石川一・海野圭介・小川剛生・川崎剛志・小林健二・新美哲彦・山本秀樹責任編集), 『正宗敦夫収集善本叢書第 期第 6 卷 源氏物語中の人々 河海并花鳥余情抄出(中・下) 源氏物語忍草(冬)』, 武蔵野書院, 2013年, 775p
4. 財団法人正宗文庫・国文学研究資料館・ノートルダム清心女子大学編(石川一・海野圭介・小川剛生・川崎剛志・小林健二・新美哲彦・山本秀樹責任編集), 『正宗敦夫収集善本叢書第 期第 5 卷 休聞抄 3』, 武蔵野書院, 2012年, 650p

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

海野 圭介 (UNNO, Keisuke)
国文学研究資料館・研究部・准教授
研究者番号: 80346155

(2)研究分担者

新美 哲彦 (NIMI, Akihiko)
早稲田大学大学院・教育・総合科学学術院・
准教授
研究者番号: 90390492

(3)藤實 久美子 (FUJIZANE, Kumiko)

ノートルダム清心女子大学・文学部・教授
研究者番号: 90337907

(4)連携研究者

木下 華子 (KINOSHITA, Hanako)
ノートルダム清心女子大学・文学部・准教
授
研究者番号: 10609605